

# 草の根通信

Vol.83 (2015年6月15日発行)



2016年の大会はアトランタを中心にジョージアで！

## P12 事務局だより

2016年の大会は、  
アトランタ(ジョージア州)を中心に開催！

## P12 協賛企業一覧

平成26年度寄附協賛企業一覧



P10

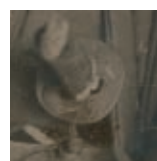
協賛企業訪問シリーズ  
「第五回」三菱商事株式会社



P08

寄稿「ペリー・パンチとパンチボウル」

マシュー・C・ペリー



P06

寄稿「万次郎とカメラ」

アメリカで学んだジョン万次郎の写真術

谷昭佳



P05

おおいた大会トピック

コロラド州グラネイダ(アマチ)収容所の歴史



P03

理事長交代・ご挨拶



次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、  
様々なビジネスを創造してきました。  
それでも、まだまだ成長過程。  
人のため、社会のために、  
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。  
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、  
ひとつの思いから。

[www.mitsubishicorp.com](http://www.mitsubishicorp.com)

 三菱商事



## 理事長交代

2015年3月、2005年12月より10年近くにわたって財団理事長を務めた渡邊泰造が任期満了により退任いたしました。

渡邊前理事長は、2006年コロラド大会をはじめとし、在任期間中、能登大会、ケンタッキー大会、宮城大会、サンフランシスコ・ベイエリア大会、高知大会、ノース・テキサス大会、島根大会、サンディエゴ大会を成功に導くために常に尽力してまいりました。理事長職退任後は顧問として引き続き財団の指導に当たり、事業活動のますますの充実、質の向上に寄与する予定です。渡邊前理事長退任に伴い、新理事長には元在ロシア大使、前在イタリア大使の河野雅治が選出されました。外務省勤務の中で日米交流の根幹にも深く携わってきた経験を活かし、CIEの更なる発展に努めていく所存です。

渡邊前理事長(左)と河野理事長



## 理事長ご挨拶

先の大戦終結から70年の節目の年である2015年は、先行き不安を感じさせる幕開けとなりました。これまでになく不安定で不透明な国際社会。深刻さを増すテロリズムや山積する地球規模の課題の前で、我々は身を守るために、内向きになりがちですが、自信を持って未来を切り拓くため、これまで以上に人類の叡智が問われていることを実感します。

このような時代だからこそ、国境を越えて人間同士の友情や信頼を築く努力を推し進めることが大切です。異なった社会に住む人間同士が交流し、相互理解を深めることの今日的意義は計り知れません。とりわけ、これまで長きにわたり交流を積み重ねてきた日本人とアメリカ人の信頼関係は、日米両国にとって、かけがえない財産であり、国際社会の将来に向けての価値ある公共財です。

私はこの度、公益財団法人国際草の根交流センターの理事長に就任いたしました。外務省時代には、米国での三回の勤務を含め、様々な場面で日米交流の実務に携わってまいりましたが、その経験を通じ、日本人とアメリカ人は相互理解を深めるのに最もふさわしい相手であることを確信しております。1841年にジョン万次郎とホイットフィールド船長とが出会ったとの史実は「センター」の活動に大変な重みを与えています。以来日米両国は、様々な試練に遭遇してまいりましたが、その都度困難を乗り越え、今や価値観を共有し、強固な信頼関係を築き上げるに至りました。理事長に就任したこの機会に、日米交流のかけがえない価値に改めて思いを致し、日米国民間の相互理解が更に深まることを念じ、「センター」の活動のさらなる発展に力を尽くす覚悟です。



理事長 河野雅治



あたたかい空へ。あたらしい空へ。

**ANA** Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

国内線のお問合せ ☎ 0570-029-222 (全国一律料金) 国際線のお問合せ ☎ 0570-029-333 (全国一律料金)

[www.ana.co.jp](http://www.ana.co.jp)



## コロラド州 グラネイダ(アマチ)収容所の歴史

今年の日米草の根サミットおおいた大会には、コロラドの「アマチ収容所保存会」の高校生・大学生が参加し、3回ほどプレゼンテーションを行う予定です。彼らが保存しているアマチ収容所は1994年5月に国の史跡登録に記載され、2006年2月には国の歴史的景観に指定されました。ここでは、アマチ収容所がいかなるものだったのか、簡単にご紹介します。



収容所内の墓地の跡地

1941年12月7日の真珠湾攻撃から2か月半後の1942年2月19日、フランクリン・D・ルーズベルト大統領は西海岸に住むすべての日系人の放逐と収容を命令しました。

荷物はスーツケース2個分に限定され、日系人は車、店舗、家屋等の個人資産を1週間程度の短い期間に二束三文で売却するか、捨てていくしかありませんでした。

126,000名の米国在住日系人のうち三分の二は米国生まれの米国市民でしたが、彼らは強制的に人里離れた10か所の収容所に抑留されました。コロラド州グラネイダ強制収容所(通称アマチ)はそのひとつで、約7,500人が収容されました。

アマチとは、高名な牧場主ジョン・プロワーズに嫁いだシャイアン族酋長の娘の名前で、グラネイダ収容所とグラネイダ町を区別するために、収容所をアマチの名で非公式に呼ぶようになったそうです。

### 鉄条網の中で

1平方マイルの収容所内の560にも及ぶ建物は、政府役人たちに対するショーケースの意味合いもあり、他の収容所に比べると上質なものでしたが、周囲は鉄条網柵で囲われ、八つの監視塔から武装した憲兵が常時監視していました。

アマチは30の居住区を持ち、それぞれが12の居住バラック、1つの食堂、そして1つの娯楽用バラックからなっていましたが、トイレ設備の欠落で被抑留者は暗闇の中、そして吹雪と砂嵐の中を、軍隊式の仕切りのないトイレまで歩かねばなりませんでした。



収容所のバラックの図



見張り塔

### アマチの生活

アマチ居住区の生活は食堂が中心となっていました。広さは12m×30mで250人を収容することができ、食堂としてだけでなく、会議室、教室そして娯楽施設として使われました。

調理人はすべて被抑留者で、食事はアメリカ風と日本風の組み合わせでしたが、カフェテリア式の集団での食事は伝統的な家庭の食事風景を不可能にしました。

また、アマチは150床の病院を有していました。病気は人口密度の高い収容所内では常に脅威だったのです。地元の新聞は、居住区における病気の集団発生をいつも報じており、1944年夏、収容所は小児麻痺との闘いで疲労困憊に陥らざるを得なかったと書きとめています。

アマチの住民はすぐ実質的自給自足体制を作っていく、1942年11月半ばにはそれぞれの居住区が5台のミシンを所有し、豆腐工場が1943年秋までに立ちあがっています。多くの熟練した専門家と職人が豊富な知識で成人学級の教師となり、教科はタイピング、速記、英語、洋裁、木彫、塗装、刺繍、作詩、書道、生け花、盆栽等多岐に亘りました。

農業、園芸に熟達した被抑留者は、特殊な灌漑と土壌処理の応急的な創意工夫によって、殺伐として不毛な景観を和ませる観賞用の庭園を造り上げました。

グラネイダ収容所は、広漠たる16平方マイルの土地を所有し、そこで家畜を飼い、多種多様な農作物を育てました。10ある全米強制収容所の中では最も大きく、また多角化された農業企業のひとつでした。

### 軍役

アマチでは人口の約10%が軍役を志願し、他の全ての収容所よりも高い志願率でした。日系アメリカ人で編成された第442連隊戦闘団を含む多くの部隊に従軍し、幾多の勲章や感謝状等を授与されました。アマチからは40名近い日系人が兵士として出征し命を失っています。



## 寄稿「万次郎とカメラ」

### アメリカで学んだ ジョン万次郎の写真術

谷 昭佳

谷 昭佳(たにあきよし)

岡山県生まれ。植田正治写真美術館学芸員を経て、2000年から東京大学史料編纂所史料保存技術室の写真担当技術専門職員として勤務。専門は写真史、画像保存、文化財写真。国内外に点在する幕末・明治初期の日本関係古写真の調査研究をおこなっている。伊豆菰山の代官であった江川家に伝わる史料群を保存している公益財団法人江川文庫での調査では、中濱(ジョン)万次郎撮影のアンプロタイプ写真(2013年重要文化財指定)を同定するなどしている。「中濱(ジョン)万次郎の写真時歴にみる江戸の最初期写真事情」(『東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信』39号、2007)、「中濱(ジョン)万次郎の写真活動とその周辺—江川家旧蔵(江川文庫)古写真を中心にして」(『土佐史談』257号、2014)など、ジョン万次郎と写真に関係する論考がある。

近年、ジョン万次郎が撮影したものと考えられる、写真原板の発見が相次いでいる。2014年には、長く所在が不明となっていた、幕末の土佐藩で重職にあった吉田東洋肖像写真の原板が、東洋のひ孫の家系宅で見つかり、新たに土佐山内家宝物資料館に収蔵された。筆者らの調査により、裏のガラス面に黒く樹脂を塗布し、表面の画像をネガ画像からポジ画像に反転させて鮮明に見せる技法の特徴が明らかとなり、万次郎が撮影した可能性が高いと同定できたアンプロタイプ写真である。刀を帯に結びつける下げ緒が内側から出ていることから、予め着物を左右逆に着たうえで刀も左右逆に指して撮影にのぞんでいるようである。文久元年(1861)1月29日の吉田東洋の記録には「晴 写真いたし候事・・・(後略)」と記されていることから、文久2年(1862)4月8日に土佐で暗殺される約1年前、文久元年の江戸滞在中に万次郎によって撮影された吉田東洋の姿であろう。同郷の東洋とレンズ越しに向き合った万次郎の写真術とは、いったいどのようなものであったのであろうか。

ジョン万次郎こと中濱万次郎は、天保12年(1841)に土佐の宇佐浦から漁にでて漂流。アメリカの捕鯨船ジョン・ハウランド号に救助された後、ウィリアム・ホイットフィールド船長によりアメリカ東海岸にあるフェアヘイブンに連れられた。そこで航海術・測量術などの諸科学の教育を受ける。19世紀の測量には写真技術を習得しているものが帯同し、写真をもとに地形図が描かれていることもあるため、万次郎も航海術・測量術などの諸科学の基礎を学ぶ過程で、当時の写真術であるダゲレオタイプ(銀板写真)についての知識を修得していたと推察できる。

嘉永5年(1852)、万次郎は高知城下に帰国。この時、吉田東洋から万次郎への聞き取り調査を命じられた河田小龍は、万次郎と共に生活しながら外国事情を彩色挿絵入り『漂異紀畧』(ひょうそんきりやく)にまとめた。そこには、捕鯨船の船頭などの持物としてケース入りの妻の肖像写真と思われる絵が描かれており、船乗りらが妻の肖像を大切にしていることが記述されている。このことは、大事な人の肖像を写真で残すという概念が万次郎には強く印象として残っており、後に母の肖像を残すためにアメリカから写真機を持ち帰ること、妻である鉄の肖像を撮影することなどに通じているといえる。河田が描いた「閉じた洋扇子を持つポーズの船頭妻肖像」の挿絵と、後に万次郎が撮影した「閉じた和扇子を持つ妻鉄の肖像」の写真のポーズが似ていることは、単なる偶然の一致であるとは言い切れない必然性がある。

安政7年(1860)1月、先に座礁したアメリカ測量艦フェニモア・クパー号の艦長ジョン・ブルックと、一部の乗組員らが咸臨丸に乗船し帰国することになった。江川家の家臣となっていた万次郎は、操船知識と語学力をかわれ、彼らと共に咸臨丸乗組員としてアメリカに向かった。アメリカ人乗組員には、測量製図の専門家、写真家や画家としても活動したエドワード・カーンの姿もあった。

サンフランシスコ到着後、万次郎は咸臨丸の修理中に写真術の実際を学び、写真道具一式を購入した。万延元年(1860)5月、万次郎は購入した写真機を携えて帰国。大石梅嶺の「北米紀聞」には、江川家配下の万次郎ら4名のアメリカ土産について、万次郎は縫物の道具「シヨエーミン」、鳴物「アツコラデアン」、写真鏡の道具の三品(ミシン、アコーディオン、カメラ)を持ち帰ったとある。また「各その術を伝授せり」とあることから、実際にそれらの土産品を使用して見せたのであろう。



## 寄稿「万次郎とカメラ」 アメリカで学んだジョン万次郎の写真術

万延元年7月の江川家江戸邸の動きを記した「御出府日記」には、万次郎が邸内で来客を相手に盛んに写真撮影をおこなっていることが記されている。29日には幕府の講武所トップである頭取の松平沖と他数名が、万次郎に写真撮影を頼みに江川邸を訪れている。頭取を迎えるため江川家では接待の支度を整えるが、撮影が終わると頭取は直ぐに帰ってしまったため、接待が空振りに終わったことが見てとれる。度重なる万次郎への来客記録からは、咸臨丸で帰国して間もなく、江戸で万次郎の写真撮影の噂が毎日に広がっていった様子を知ることができる。

万次郎が撮影したと考えられる、江川家に伝来する万延元年頃の37代当主江川英敏(1843-1862)のガラス板の写真には、ひとつの技術的特徴を見ることができる。それは黒い樹脂を画像のない側のガラス裏面に塗布し、画像のあるガラス表面の上には別のカバーガラスを被せている仕様である。この仕様は、アメリカ人のJames Ambrose Cutting が1854年に特許を取得したアンブロタイプ(Ambrotype)と呼ばれるもので、黒い樹脂をガラス裏面に塗布することで画像をポジ化して鮮明なものとするが、一方で画像のある面を上にして見ることにより被写体が鏡像となる技法であった。同時期に江戸や横浜で制作された、アメリカ人商人フリーマン、その弟子の鶴飼玉川、佐賀藩医の川崎道民らの手による写真には見ることができない技法である。つまり、万延元年頃の万次郎撮影写真の技術的特徴のひとつと仮定できるのである。

黒い下地の仕様について、万次郎の長男、中濱東一郎の編著書『中濱萬次郎傳』(富山房、1936)では、「当時はガラス板の裏面(肖像を写してない一面)に黒色の樹脂を塗り、肖像を写してある面を表にして直に画像を見るようになるため、画像は左右反転して現れる、そのため当時万次郎に撮影をお願いする人々は予め衣服を左前に着用して機械に向く人々も少なからずであったという。黒色の布片を用いらず、特殊に樹脂を塗布したのは、肖像の鮮明にすることを期待するため、当時は一般に欧米諸国で行われた方法である」と説明されている。

万次郎と共に咸臨丸で渡米した福澤諭吉が、サンフランシスコのウィリアム・シュー写真館で撮影した写真(慶應義塾福澤研究センター所蔵)は、江川英敏のアンブロタイプ写真と同じような黒い樹脂が薄く画像の無いガラス裏面に塗布されている。また、写真を収めているケース・金属フレーム・金属マット・カバーガラスなどの構成も、江川家伝来の複数のアンブロタイプ写真と同様であった。くわえて画像を保護するカバーガラスなどを留めるために用いられる、薄茶色の紙テープも、まったく同じものが使用されていた。

これらアンブロタイプを写真作品として仕上げる手法が酷似していることにより、万次郎が写真を学んだとされるサンフランシスコの写真館とは、福澤ら遣米使節団メンバーも足を運んでいる、写真材料の販売業も営んでいたウィリアム・シューの写真館であった考えるのが自然であろう。よって、ウィリアム・シューなどアメリカの写真館と同様の金属枠などを用いてケースに収められていることも、先のガラス裏面に塗布された黒い樹脂と同様に、万次郎により制作された写真のひとつの特徴を示しているといえよう。

アメリカで学んだ万次郎の写真術とは、それまでの日本の写真術が蘭学や科学実験の延長線上にあったこととは一線を画す、既に商業写真として完成された写真術を短期間に実学として習得したものであった。また同時に、写真をひとつの鑑賞作品として仕上げる手法をアメリカの写真館から導入し、西洋社会で根付いていた個人的記憶のために写真を残すという写真文化を持ち込んだのである。今や世界屈指の写真大国である日本に、文化としての写真を広めた最初の日本人は、ジョン万次郎であったのである。



吉田東洋肖像写真【アンブロタイプ】  
(土佐山内家宝物資料館所蔵)



裏側のガラス面に塗布された黒い樹脂



内側から出ている刀の下げ緒

Perry Punch and Punchbowls

寄稿

ペリー・パンチとパンチボウル

マシュー・C・ペリー



1907年に撮影された  
アメリカ海軍艦艇ロードアイランド



ロードアイランドの人々が  
アメリカ海軍艦艇ロードアイランド(BB-17)に  
贈った銀製のパンチボウル

ペリー家で飲まれているお酒「ペリー・パンチ」のレシピは、200年前から当家に受け継がれてきたものだ。ペリー家やロードアイランドの住民の間で語り継がれてきた話によると、海軍代将オリバー・ハザード・ペリーの名誉を祝して1813年にロードアイランド州プリストルで開かれた大規模なレセプションで初めてこのペリー・パンチが出されたそうである。「1812年戦争(アメリカの第二次独立戦争とも呼ばれている)」中の1813年9月10日、エリー湖の湖上戦でオリバーはイギリス軍を破り全ての船隊を捕獲した。イギリス軍が一つの船隊全てを失ったのはこの時が初めてで、アメリカ史上でも最大の勝利として人々の記憶に残されている。

この大勝利の知らせに歓喜したのが、オリバーの父クリストファー・ペリー大尉の友人で造船にも関わっていた富豪のジェームズ・デ・ウルフ氏であり、友人クリストファーと彼の息子オリバーの名誉を祝して1813年11月26日、プリストルー番の高台マウントホープに建つデ・ウルフの館「ザ・マウント」で祝賀会を開催した。

オリバーの二人の弟、レイモンドとアレクサンダーもデ・ウルフ氏に貴賓として招かれ、レイモンドはこの祝賀会でデ・ウルフの娘マリアンヌと出会い、翌年二人は結ばれた。二人の結婚によって生まれたデ・ウルフ家とペリー家の深い絆を、デ・ウルフ氏も私を含む子孫たちも大変嬉しく感じている。

後年1853年から54年にかけて日本との開国交渉で名を馳せたオリバーの弟マシューは、その時大西洋沿岸での職務のため祝賀会は欠席した。

レイモンド・ペリーの玄孫アレクサンダー・ペリー・スコットによるペリー・パンチの材料は以下のとおり：

シャンペン	7クオート (1クオート=0.94リットル)
クラレット(ボルドーの赤ワイン)	4クオート
ジャマイカラム酒	2/3クオート
オレンジキュラソー	1/2パイント (1パイント=0.47リットル)
砂糖	山盛り茶さじ12杯
レモンオイル	12滴

砂糖はレモンオイルで溶かし、そこにオレンジキュラソー、ラム酒、クラレットを加える。冷したシャンパンは飲む直前に氷と共に加える。上記の分量で4オンス(約118ml)カップ約100杯分となり、大変口当たりのいいパンチができあがる。甘くて飲みやすいがために、つい飲みすぎて酔いが回らないよう注意が必要だ。私が知る限り、このペリー・パンチは結婚式や洗礼式、葬儀等家族の特別な行事にしか出されていない。



# 寄稿「ペリー・パンチとパンチボウル」



ロードアイランドの人々がアメリカ海軍艦艇ロードアイランド(BB-17)に贈ったパンチボウルに彫られている海軍代将オリバー・ハザード・ペリーと海軍代将マシュー・カルブレイス・ペリーの彫像



デンハーグでオーガスト・ベルモントと娘のキャロライン(中央)を訪ねた際に孫のオーガスト・ベルモントJr.を抱くM.C.ペリー提督

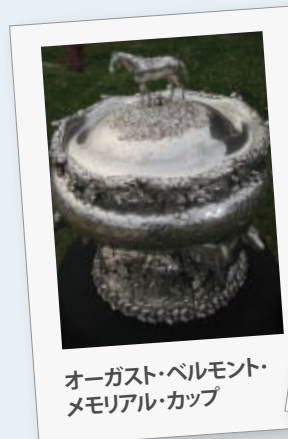
ロードアイランドの住民の大多数は、かつてアメリカ海軍艦艇ロードアイランド(BB-17)と呼ばれた戦艦が存在していたことをおそらく知らないと思う(現にこの私も最近まで知らなかった)。ロードアイランドは1906年2月19日に初代艦長ペリー・ガースト大佐の指揮下就役した。15隻の戦艦と魚雷船部隊と合流し、「示威」を目的として世界巡航に送りだされ、海外の多くの港を訪れた。同艦隊は「グレート・ホワイト・フリート」と呼ばれ、出航前にルーズベルト大統領の観閲を受けている。

1907年、ロードアイランドの人々はこの戦艦に銀製のパンチボウルとコーヒーセットを贈った。値段およそ8,500ドルの銀食器セットはウィリアム・C・コッドマンのデザインによるもので、パンチボウルの表面にはロードアイランドの歴史と共に海軍の英雄4名と陸や海の産出物が彫られている。4人の英雄の名は海軍代将オリバー・ハザード・ペリー、海軍代将マシュー・カルブレイス・ペリー、エセク・ホプキンス、アブラハム・ホイップル。その他、2羽のワシと2羽の七面鳥を始めトウモロコシやホンビノス貝、ロードアイランドの青リンゴなどが彫られている。

第1次世界大戦後1920年に、戦艦ロードアイランドは予備役となり、その後スクラップとして売却された。船が任務を解かれた後、銀食器はロードアイランドに返され、州議事堂のガラスの棚に収納展示されている。おそらく州の行事などに使われたこともなく、一般に公開されていただけである。今またこのパンチボウルをパーティーなどで使えたらどんなにか楽しいだろう。ただ問題は、パンチボウルにはそれぞれ用のコップがついていなかったの、各自で紙コップを用意する必要があるようだ。

もう一つ、全国的に注目を浴びているペリー家ゆかりのパンチボウルがある。それが「オーガスト・ベルモント・メモリアル・カップ」だ。この銀製の大型パンチボウルはベルモント・ステークスの優勝馬のオーナーに授与される。ベルモント・ステークスとはアメリカ競馬会のアメリカクラシック三冠の3冠目として行われる大変厳しい大会で、ケンタッキー州ルイビルでのケンタッキー・ダービーとメリーランド州ボルチモアのブリークネス・ステークスの後に続いて開催される。19世紀有数の銀行家で競馬関係者であったオーガスト・ベルモント氏からこの名前がつけられた。ベルモント氏は1849年にマシュー・ペリーの娘キャロライン・ペリーと結婚し、息子のオーガスト・ベルモントJr.がその伝統を継承した。

ティファニー製のトロフィーは純銀のボウルで蓋が付いており、高さ18インチ、直径15インチ、台座の直径が14インチの大きさである。1869年から1926年まで、トロフィーはベルモント家のもとにあったが、1926年オーガスト・ベルモントJr.少佐の未亡人エレナ夫人によってウェストチェスター競馬会に寄贈され、以来永久的にベルモント・ステークスのトロフィーとして使用されるようになった。ウェストチェスター競馬会のジョン・J.コークリー氏が1926年6月8日、夫人に宛てた手紙に「ご希望に従い、いただいたトロフィーは今後オーガスト・ベルモント・メモリアル・カップと呼ばせて頂き、ベルモント・ステークスのトロフィーとして毎年授与されます。その年の勝者が翌年までの1年間カップを持ち続けることとなります。」と、書いている。



オーガスト・ベルモント・メモリアル・カップ



ベルモント・ステークスのトロフィーを勝ち取った誇りあふれる優勝者

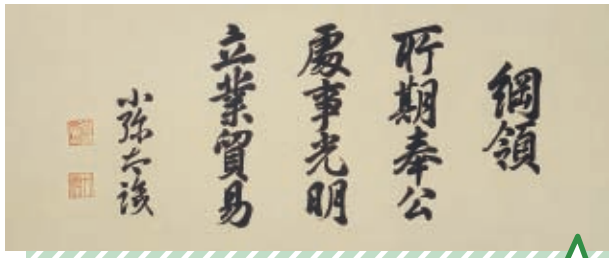
協賛企業訪問シリーズ



## 第5回「三菱商事」

協賛企業訪問の第5回目は、CIEを設立時から支援をしている三菱商事株式会社です。

同社は、国内および海外約90カ国に200超の拠点をもち、600社を超える連結対象会社と共にビジネスを展開する最大の総合商社です。地球環境・インフラ事業、新産業金融事業、エネルギー事業、金属、機械、化学品、生活産業の7グループにビジネスサービス部門を加えた体制で幅広い産業を事業領域としています。今回は企業理念である三綱領にも盛り込まれている社会貢献活動に絞って、お話をうかがいました。



三菱の三綱領



「MC FOREST」での小川直子さん(左)と安川彩さん

### 社会貢献は企業存続のための社会的経費



藤野忠次郎社長

当社の社会貢献活動の原点は、1973年の藤野忠次郎社長（当時）の社会貢献の重要性に関するスピーチでした。藤野は、「・・・企業は、その企業活動を通じて（生ずる有形無形の）社会的コストをまず負担し、企業として社会のserviceを提供した後に、利益を享受すべきであるということであります。」と述べ、これをきっかけに、同年10月に社内に社会環境室が新設され、実質的な社会貢献活動のスタートとなりました。

現在、私達が行っているのは、「地球環境」「福祉」「教育」「文化・芸術」「国際交流・貢献」の5分野で、これらを中心に世界各地の社員が自発的に参加して汗を流すとともに、継続して活動に取り組むことを重視しています。

### 大分とのお縁、そして障がい者スポーツ支援へ

今年、CIEの日米草の根交流サミットは大分県で開催されますが、私達の福祉分野の活動も実は大分と深いご縁があります。そのひとつは大分県別府市にある「三菱商事太陽株式会社」です。当社は1979年から同市の社会福祉法人「太陽の家」を支援してきましたが、1983年には共同出資してこの会社を設立。ここでは、多くの障がいを持つ社員がコンピューターによる情報処理、マルチメディア・コンテンツの制作、オンデマンド印刷などの事業に従事しています。

もうひとつは「大分国際車いすマラソン大会」（主催：大分県ほか）への支援で、1991年から協賛しており、社員ボランティアが毎年参加しています。今では世界規模の大会となりました。



ボランティアの様子



## 協賛企業訪問シリーズ 第5回「三菱商事」

昨年、当社は新生・三菱商事として発足してから 60 周年を迎えましたが、その節目を記念して、長年にわたって取り組んできた「障がい者スポーツ支援」をさらに充実させるべく、「DREAM AS ONE.」プロジェクトを開始。これまで以上に障がい者スポーツの裾野を広げ、理解度・認知度を高めるために、様々な活動を行っています。



大分国際車いすマラソン大会の様子

### 「継続」と「社員参加」をモットーに

もうひとつご紹介したいのは、「母子の自然教室」プロジェクトです。1974 年から 40 年にわたって継続開催しているもので、ひとり親家庭の母子を対象とした人や自然との触れ合いを体験する 2泊3日のキャンプです。ミーティングとトレーニングを重ねた社員ボランティアが、参加した母子と一緒に自分たちの手でキャンプをつくり上げます。昨年夏までに、延べ 16,845 人の親子と 942 人の社員ボランティアが参加してきました。「継続」と「社員参加」をモットーとする当社の社会貢献活動を代表する活動の一つです。



母子の自然教室



### 社会とのかけはしに

教育分野としては、1991 年から実施している「三菱商事留学生奨学金」プログラムをとおして、昨年までに 1,007 名の外国人留学生に奨学金を支給するとともに、2000 年から昨年までに海外各地の大学で学ぶ現地の学生 5,821 名に奨学金を支給してきました。

尚、海外においては、国際地域社会の発展に寄与するため、その地域のニーズに合った国際貢献活動を行っています。2014 年度は 43 ヶ国で計 67 件の施策を実施しました。

東日本大震災復興支援にも力を入れており、「三菱商事復興支援財団」を 2012 年に設立し、産業復興・雇用創出のために投融資を行っています。これまで 44 社に対して合計約 20 億円の投融資を行いました。また、「被災地で支援を手伝いたい」という社員の声を受け、これまで 3,600 人以上の社員ボランティアが実際に体を動かしながら現地でさまざまな活動に参加しています。

### “三菱商事の森”MC FOREST

東京の丸の内にいらっしゃる機会がある方々には、ぜひ当社の環境や社会への取り組み、ビジネスを紹介する CSR ステーション「MC FOREST」にお立ち寄りいただきたいと思えます。三菱商事本社ビルの一階にあり、どなたでも見学いただけます。ここでは、社会貢献活動の展示も行っていますし、各種セミナーやワークショップも定期的で開催しています。多くの皆様にお越しいただき、三菱商事の社会貢献活動を知っていただければ幸いです。

事務局だより

2016年の大会は、アトランタ(ジョージア州)を中心に開催!

日米草の根交流サミット大会は1991年以来、奇数年は日本で、偶数年はアメリカで交互に開催をしています。偶数年の来年第26回大会は、米国南部の文化色濃いジョージア州アトランタを中心に開催することが決定しました。

来年2016年は、アトランタ・オリンピック開催から20年、またジョージア州と鹿児島県の姉妹提携50周年の節目の年でもあります。

アトランタといえば、まず頭に思い浮かぶのは「風と共に去りぬ」。映画で名演技を披露したビビアン・リーやクラーク・ゲーブルが宿泊したホテルは歴史建造物となり、プレミア上映されたFOX劇場はそのエキゾチックな様相で今も人々を魅了しています。もちろん、著者マーガレット・ミッチェルの記念館もあります。

さらに、アトランタは公民権運動の指導者、マーチン・ルーサー・キング・ジュニア牧師の生誕地。彼のワシントンDCでの演説「I have a Dream」は、学生時代に暗記した方も多いのではないのでしょうか。彼の生まれ育った地域は、キング牧師国立歴史地区となり、資料館であるキングセンター、生家、伝道を行っていた教会などを見ることができます。

そして、アトランタは南部最大の商業都市。「ワールド・オブ・コカ・コーラ(コカ・コーラの博物館)」や「CNNセンター」は見逃せないポイントです。日系企業も、YKK株式会社や株式会社村田製作所など数多く進出しています。

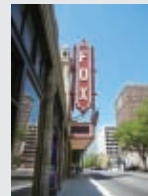
日程その他の詳細は、次回からの草の根通信やホームページのアップデートを楽しみにお待ちしております!



CNNセンター



ワールド・オブ・コカ・コーラ (コカ・コーラ博物館)



FOX劇場



FOX劇場の側面

平成26年度寄附協賛企業一覧 (50音順)



曙プレーキ工業株式会社



イオン株式会社



鹿島建設株式会社



キッコーマン株式会社



株式会社ジェイテクト



全日本空輸株式会社



ダイキン工業株式会社



株式会社大庄



株式会社デンソー



東海旅客鉄道株式会社



豊田合成株式会社



トヨタ自動車株式会社



株式会社豊田自動織機



豊田通商株式会社



株式会社永谷園



株式会社ニフコ



日本郵船株式会社



日野自動車株式会社



富士通株式会社



ブラザー工業株式会社



三井住友海上火災保険株式会社



三菱商事株式会社



三菱食品株式会社



明治安田生命保険相互会社

アイシン精機株式会社 / 愛知製鋼株式会社 / アサヒグループホールディングス株式会社 / 東京海上日動火災保険株式会社 / トヨタファイナンシャルサービス株式会社 / トヨタ紡織株式会社 / パナソニック株式会社 / 矢崎総業株式会社